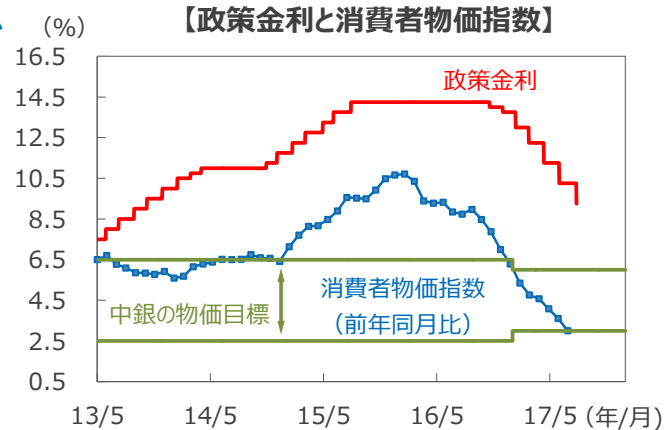


今日のトピック ブラジルの金融政策 (2017年7月)

前回同様1.00%利下げ、今後も利下げが続く

**ポイント1 政策金利を1.00%引き下げ
7会合連続の利下げ**

- ブラジル中央銀行 (以下、中銀) は、7月26日の通貨政策委員会で、政策金利を1.00%引き下げて、9.25%とすることを全会一致で決定しました。前回に続く1.00%の利下げは市場予想 (ブルームバーグ集計) の通りでした。利下げは7会合連続で、昨年10月以降の利下げ幅は累計で5.00%となりました。

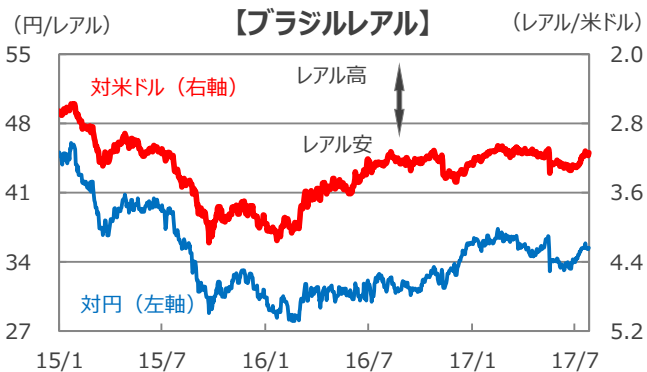


(注) 政策金利は2013年5月1日～2017年7月26日。消費者物価指数は2013年5月～2017年6月。中銀の物価目標は年率+4.5%で、レンジは2016年末までは±2%、2017年は±1.5%。

(出所) Bloomberg L.P.、ブラジル中央銀行のデータを基に三井住友アセットマネジメント作成

**ポイント2 利下げが続く見込み
インフレの鎮静化傾向が続く**

- 中銀は声明文で、経済の不透明要因が増えているにも拘らず影響は限られたため、前回と同じペースの利下げを実施したと説明しました。
- 最近の物価動向は好ましいと評価しています。6月の消費者物価は前年同月比で+3.0%と一段と鈍化し、インフレの沈静化傾向が続いています。
- 中銀は物価の予想調査などにに基づき、2017年は前年比+3.6%、2018年は同+4.3%と、中銀の物価目標レンジ (同+4.5%±1.5%) に収まると想定しています。また、次回の会合でも同じペースで利下げを行う可能性があるかと表明しました。



(注1) データは2015年1月1日～2017年7月26日。

(注2) (レアル/米ドル) は逆目盛。

(出所) Bloomberg L.P.のデータを基に三井住友アセットマネジメント作成

今後の展開 レアルはレンジ内の動き

- 通貨レアルは、2016年5月のテメル政権誕生以来、経済・財政改革やインフレ率低下が進むなか、堅調に推移してきました。しかし、今年5月にテメル大統領に汚職隠ぺい疑惑が浮上し、政治の混乱や財政改革の遅れを嫌気した売りから調整しました。その後テメル大統領の辞任・弾劾の可能性が後退し、レアルは落ち着きを取り戻しつつあります。政治リスクに上値を抑えられるものの、中銀の指摘通り、ブラジル経済は改善基調にあるため、レアルは当面レンジ内での動きとなりそうです。

ここもチェック! 2017年6月2日 **ブラジル9四半期ぶりのプラス成長**
2017年6月1日 **ブラジルの金融政策 (2017年5月)**

■当資料は、情報提供を目的として、三井住友アセットマネジメントが作成したものです。特定の投資信託、生命保険、株式、債券等の売買を推奨・勧誘するものではありません。■当資料に基づいて取られた投資行動の結果については、当社は責任を負いません。■当資料の内容は作成基準日現在のものであり、将来予告なく変更されることがあります。■当資料に市場環境等についてのデータ・分析等が含まれる場合、それらは過去の実績及び将来の予想であり、今後の市場環境等を保証するものではありません。■当資料は当社が信頼性が高いと判断した情報等に基づき作成しておりますが、その正確性・完全性を保証するものではありません。■当資料にインデックス・統計資料等が記載される場合、それらの知的所有権その他の一切の権利は、その発行者および許諾者に帰属します。■当資料に掲載されている写真がある場合、写真はイメージであり、本文とは関係ない場合があります。